

# 小中学生における体力低下の原因認識に関する調査

～教員・保護者・児童生徒の比較考察から～

西川 葵（生涯スポーツ学科 学校スポーツコース）

指導教員 柴田 俊和

キーワード：体力低下 運動 原因認識

## 1. 緒言

20年前に比べ、校庭や近所で子どもたちの笑い声や遊んでいる声等が聞こえなくなり、小学校では休み時間なのに静かな時間が増えた。放課後は、学校も校庭も施錠され、社会的に物騒になってきていることが原因で家の近所でしか遊べない。その中で、今、子どもの体力低問題が大きく取り上げられるようになった。

本研究では、体力低下の根本的な原因を明らかにすることを目的とし、体力低下や運動に関する認識や知識が、子どもや教員、保護者等の間で、どの範囲まで、どの程度理解できているのかを調査した。調査結果をもとに、それらの認識や知識に対応して、どのような対応や取り組みを行っていくべきかを考察する。

## 2. 研究方法

【被験者】滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、大分県の小学生 96 名、中学生 45 名、教員 54 名とアルバイト先で保護者 43 名のご協力を得て調査を行なった。

【調査方法】子どもの体力低下の原因を認識するために自由記述式の質問紙調査法を用いた。

## 3. 結果と考察

小学生と中学生のアンケート調査の結果、子どもの体力が低下していると認識していたのは、小学生で52%、中学生で51%だった。その理由として、今は外で遊ばないからや親よりも運動できているなどの回答があり、子どもの中で体力が低下していると認識している子とそうでない子に二極化していることが分かった。

教員の調査結果、子どもの体力が低下していると認識していたのは、76%であった。その理由として、体を動かす機会、場所、時間の減少

や子どもの実態からという回答があり、また、状況的に変わっていないという反対の回答もあった。

保護者の調査結果、子どもの体力が低下していると認識していたのは、94%であった。その理由として、すぐに疲れるや能力が低い、外で遊ばないという回答があった。しかし、体力低下していることを認識しても、教員以外は、体力低下の原因をはっきり理解していなかった。

考察の結果、体力低下の原因は、体を動かすための「場所」、「時間」、「機会」の減少であることが分かった。また、子ども、保護者、教員が体力低下を認識していても、深刻に捉えていないため、体力低下を防ぐ具体策を見つけていないことも分かった。学校では体力低下に関する対策を行っていても、その対策が、地域、家庭に連携されず、学校だけが体力低下を防ごうとしていることも理解できた。

## 4. まとめ

本研究で、子ども、保護者、教員の三者とも、子どもの体力低下を認識していることが明らかになったが、子どもや保護者は、体力低下を防ぐための具体策を理解しているとはいえない。そのため、明らかになった体力低下の原因である、「場所」「時間」「機会」の減少を少しずつ改善し、子どもが体を動かす機会を多くつくることが課題であると考える。

## 引用・参考文献

- 竹中晃二他編(2010)：アクティブチャイルド 60min 財団法人日本体育協会  
中央教育審議答申(2002)：子どもの体力向上のための総合的な方策について